

釜石市議会議員 小野 共

釜石市議会通信

第7号



小野共です。いつもありがとうございます。3月2日に始まった3月定例会は33件の議案と4件の議議案を可決し3月18日に閉会しました。

3月定例会の最終日に市長が記者会見し、釜石市議会に合併協議会設置の議案を付議しない、とするコメントを発表しました。これは昨年11月28日の大槌町議会の合併協議会設置の議案の否決を受け、大槌町議会の否決の判断に納得出来ない大槌町の住民の方々が、もう1度合併協議会設置の議案を釜石市議会と大槌町議会に付議するよう署名を集め大槌町長に提出し、大槌町長が野田市長に意見照会していたものです。

市長が、合併協議会の議案を釜石市議会に付議しない理由として挙げたのは、大槌町議会が再度合併協議会設置の議案を否決した場合、大槌町が合併協議会設置の住民投票をする可能性があり、これは大槌町政の混乱につながりかねず、そしてその状態で合併協議会が設置されたとしても大槌町と合併に関する十分な協議が出来ない、とのことでした。

3月定例会で定額給付金の補整予算が可決されましたので詳細を報告します。これは最近の厳しい経済情勢の中で、家計への生活支援を行うと共に、消費を増やし経済の活性化を図る為の給付です。

- 申請期間：平成21年3月18日（木）～平成21年9月18日（金）
- 給付方法：原則として口座振込。口座への入金は、申請書を受け付けた日から30日か40日後になる見込みです。
- 申請方法：3月17日頃、市が、定額給付金お知らせ兼申請書、を各家庭に発送します。この用紙に名前、電話番号、受取口座を記入し、返信用封筒に入れ切手を貼らずにポストに投函して下さい。早めに申請して下さい。
- 定額給付金に関する問い合わせ先：0120-980-950（フリーダイヤル）

3月定例会も私が一般質問しましたので原稿の一部を掲載します。今回は質問のテーマに北海道夕張市の財政破綻を取り上げました。実際に夕張で何があったのか、財政破綻の原因は何なのか、釜石の財政は大丈夫なのか、と考えたのが今回夕張市を調べ始めたきっかけです。

夕張は会計の赤字を隠す為に、見かけ上決算を黒字に粉飾しておりました。決算が赤字になるのを先送りにしていました。実際にそんなことが出来るのだろうかと思い、いくつかの資料を取り寄せ調べてみました。北海道庁の夕張市に関する報告書を読みましたが、かなり分りにくい、というのが私の印象です。この夕張の決算書の粉飾を釜石でやられたら議会は見ぬことができるのだろうか、と正直不安になりました。

議員になって以来、自治体の決算書の記載のあり方も不思議でした。民間企業の簿記のあり方とは根本的に違っております。自治体の決算書は本当にその自治体の財政状況を正しく表しているのだろうか、と疑問でした。このような決算書に基づき、首長と議会は正しい判断が出来るのかと疑問でした。

これは1度、議場で取り上げる必要があると考え、今回財政破綻と粉飾決算の仕組みを一般質問で取り上げました。

夕張に学ぶべきこと（平成21年3月11日一般質問）

今から3年前、平成18年6月20日、夕張市6月定例会の冒頭で後藤健二前市長が、夕張の財政

500

再建団体の指定を総務省に申請することを表明し、翌年平成19年3月6日、夕張は国から財政再建団体の指定を受けることと成りました。

財政再建団体とは地方財政再建促進特別措置法に基づき、赤字額が、市町村の場合、標準財政規模の20%を越える状態にあり、且、総務大臣に申請し、指定を受けた自治体のことを指すものです。

標準財政規模とは、自治体で通常収入されると見込まれる一般財源の規模を示すものであり、市税、交付税など、通常その自治体に入ると見込まれる税収を合わせた金額のことであり、夕張の場合、この標準財政規模は平成18年度現在44億円であります。

夕張の財政赤字額が標準財政規模である44億円の20%を越える状態、つまり夕張において赤字額が9億円を越えている状態が、いわゆる財政破綻と呼ばれる状態であり、財政再建団体の指定を受ける基準でもあります。夕張が総務省に財政再建団体の申請をした平成18年度の決算においては、夕張市の実質収支は、普通会計、公営事業会計全て合わせ358億円の赤字となっております。夕張において赤字額は標準財政規模の20%どころか、標準財政規模の8倍となっております。

平成19年2月28日、夕張の臨時会で承認された財政再建計画によると、夕張はこれから、国の監視の下、この自身の標準財政規模の8倍に上る360億円の赤字を、平成36年まで年間18億円づつ19年間かけて支払い、全ての赤字を解消することとなりました。

一年間に夕張に入る一般財源の額は44億円です。夕張の年間の返済額18億円は、この年間の一般財源である44億円の約4割にあたります。言いかえるならば、毎年夕張に入る財源の約4割のお金が何もせずただ、市の借金の返済にあてられることとなるわけです。

平成18年4月現在で270人いた市職員は3年間で135人にまで削減され、市民税、固定資産税、市の施設利用料金、市営住宅使用料、下水道使用料、これらすべてが赤字解消の為、大幅な値上げとなりました。図書館と美術館は廃止され、学校は統合されることとなりました。現在夕張は、日本一高い住民負担で、日本一低い行政サービス、と言われております。

今日は、北海道のこの夕張で起こったことが、釜石では起こるはずもない、全く別世界の出来事なのか、そして夕張の財政破綻から我が釜石は何を考えるのかを聞いておきたいと思います。

夕張の会計は普通会計と公営事業会計全て合わせた決算額が歳入ベースで658億円です。人口が11,000人でこの会計規模です。我が釜石と比べれば、釜石の人口が42,000人で会計全て合わせた連結決算額が歳入ベースで330億円です。夕張は釜石の4分の1の人口で釜石の倍の決算規模ということですから。夕張の決算額がどれだけ大きいものかが容易に想像出来ると思います。

財政再建計画の住民説明会では、市民から、財政破綻に気付かない議員なら給料を払う必要はない、という声があったということです。議員の中には、議員の仕事とは市民の声を議会に届けることだけだと思っていた、とコメントする議員もいたということです。

実際に決算を粉飾していた当局の責任はさておき、これだけの長期間にわたり、これだけ巨額の赤字を発見出来なかった夕張の議会は一連の事実をどのように考えているのでしょうか。議員が責任を取るとは一体どういうことなのでしょうか。果たして議員の仕事とは何をするのでしょうか。

1点目の質問です。まず我が釜石では夕張の財政破綻をどのように認識しているのか聞かせて下さい。そして夕張で起こった一連の事実を我が釜石にどのように生かす考えなのか聞かせて下さい。

2点目。平成19年度の釜石の決算を改めて聞いておきます。実質収支は3億8,900万の黒字となっておりますが、しかしこの数字は前年度の繰越金を含んでおりますのでこの金額が平成19年度1年間の収支を正しく示すものではありません。実質収支から、前年度の繰越金を引いた金額である、平成19年度1年間の単年度収支は8,700万円の赤字となっております。

しかしこの金額も市が持っている積立金を取り崩して資金を調達して見かけ上黒字に操作出来ることから、平成19年度1年間の実質の収支を見るためには、この単年度収支から基金への積立や取崩の金額を差し引きする必要があります。これで出された金額が平成19年度1年間の釜石の会計収支を正しく示す数字であり、実質単年度収支と呼ばれるものです。そしてこの実質単年度収支は3億1,400万円の赤字となっております。

質問致します。我が釜石が財政破綻する可能性をどのように考えているのか、そして平成19年度の実質単年度収支で3億の赤字を出した原因を聞かせて下さい。

3点目。今の釜石で優先されるべきは景気対策なのか財政運営なのか、です。平成21年度の予算を策定する上でも判断の基準となったものの1つであるはずで。景気対策と財政運営に関す

る市長の考えを聞かせて下さい。

4点目。我が釜石においては、赤字額が標準財政規模の20%を超す、いわゆる財政破綻の状態を過去2回経験しております。御存知の通り1回目は昭和30年、地方財政再建促進特別措置法の適用を受けず、自力で財政再建計画を策定しており、2回目は昭和41年、法律の適用を受け国の管理のもと財政再建計画を策定しております。市長にお聞き致します。過去2回の釜石での財政破綻の原因をどう認識しているか聞かせて下さい。

自席からの質問

部長の答弁では、財政破綻は全く想定していない、ということでしたが、それではその釜石の財政は大丈夫だという根拠を当局は、住民あるいは議会に対してどのように説明することが出来るのだろうかということです。釜石の財政はこうこうこういう理由から当面は破綻する可能性は低いですと、どのように説明するのだろうかということだと思います。今日の私の一般質問の目的は釜石の財政を考えることにあります。

部長の答弁の中で、実質単年度収支は黒字に越したことはありませんが、この数字がマイナスでも行財政運営に直接の影響はない、との答弁でした。

整理しますと、今年度の実質収支には前年度からの繰越金を含んでおります。言いかえれば例えば今年度だけで赤字を出したとしても、その今年度出してしまった赤字額が、前年度からの繰越金より少なければ、今年度の実質収支は黒字に出来てしまうということです。加えて平成19年度は、財政調整基金を4億崩して一般会計に入れておりますが、これは、一般家庭で言えば今月の家計が苦しいので貯金を下ろして使ったということです。その4億円が実質収支を計算する為の歳入に計上されているということです。それで出た数字が実質収支の黒字ということなのです。

これを、基金の繰り入れを、民間企業の会計で処理すれば貸借対照表の資産の部の預金が減り、同額、現金が増えるだけで企業の収支には影響はありません。そのとおりだと思います。そのとおりにすべきだと思います。一般家庭に例えれば今月家計が苦しいから貯金を下ろして使ってそして赤字を黒字だと言っていることと同様です。

同じく一般家庭に例えるなら今月は少し黒字が出そうだからということで黒字分を貯金すれば、今月の実質収支は0になってしまい、本来黒字だったことは実質収支には全く反映されません。このようにして出した実質収支だけでは、その自治体の財政を正しく分析するには、少し不十分なのではないのかというのが私の結論です。実質収支が黒字か赤字かだけを見るのではなく、前年度からの繰越金や、基金への積立、取崩し、地方債の償還、これらの数字を考慮した、実質単年度収支を実質収支と合わせて釜石の財政を判断しなくてはいけないのではないのか、というのが私の考えです。

民間企業会計の簿記によれば、基金の取り崩しは貸借対照表における現金が増え、預金が減っただけで収支を計算すべき損益計算書には全く影響はありません。つまり基金を取り崩しても今年度の自治体の収支は赤字は赤字です。本来そうあるべきです。しかし今の自治体会計では基金を取り崩してお金を会計に入れると繰入金として処理され、それは収支にプラスに働きます。これでは自治体の財政の状況を正しく示しているとはどうしても思えません。

同じく例えば地方債発行して資金を調達した時、現在の自治体会計では歳入が増え、収支がプラスに働きます。地方債というお金を借りたことでなぜ自治体の収支がプラスに働くのでしょうか。対してこれが企業会計であれば、貸借対照表の資産の部の現金と、負債の部の借入れ金と同額増えるだけです。本来借金したことはその組織の収益にプラスに働くものではなく、財産が増えたのか減ったのかと考えるべきだと思います。

その自治体の財政の状況を正しく判断する為に、実質収支は勿論、実質単年度収支もあわせてみるべきであり、私が実質単年度収支が平成19年度我が釜石において赤字だった理由を聞いたのはそこにあります。少なくとも黒字であるに越したことはない、というような数字ではないんだと思うのです。

夕張でおこった事の問題は大きく2つあり、1つはまず市の体質が赤字であること、そしてもう1つは、その赤字の体質と赤字を隠したこと、であると思います。

赤字を隠し続けたこと、ですが北海道庁がまとめた夕張の財政運営に関する調査書に、夕張の粉飾決算の手法が書いてありますが、この会計操作を見ぬくのは難しいと思いました。

出納整理期間に今年度の一般会計から特別会計に資金を貸しつけ、翌年度の特別会計から今年度の一般会計にお金を返す。一般会計は特別会計に貸したお金を貸しつけ金として処理し、すぐ特別会計から返してもらったお金を諸収入として処理する。結果的に今年度は一般会計も特別会

計も赤字も資金不足も発生しないことになります。これがジャンプ方式或いは赤字飛ばしと呼ばれる手法です。さらに一般会計にもこのお金がないので全額、金融機関から一時借入れ金として借りていたということです。

調べていく上で問題だと感じたのは2つあり、1つはこのジャンプ方式が違法ではないということ、そしてもう1つは一時借入れ金は決算書に載せる必要がないということです。

一連の夕張で起こったことから我々釜石が考えなくてはいけないことは、まず第1に市の会計の体質として黒字を出せる体質なのかどうか、2つ目は行政が真実の情報を正直に開示するという強い倫理観を持っているかどうか、3つ目はもしこの粉飾まがいの決算があった時にそれをどうやって見抜くのかということだと思います。市の会計のチェックの体制はどのようなものであるべきなのか、そして今の市の監査体制で粉飾決算を見ぬけるのか、それらを考えておくことだと思います。

質問致します。ジャンプ方式と呼ばれる操作を釜石でしたことがあるか、あるなら具体的にどのようなことをしたのか聞かせて下さい。

2点目。現在、我が釜石において一時借入れ金はいくらあるか聞かせて下さい。

3点目。出納整理期間を利用した会計間の貸し借りは違法ではないということです。つまりこの出納整理期間の資金の貸し借りを、粉飾の意志をもってするのか、それとも利便性だけから全く善意でやるのかは、行政側の倫理観にかかっているということです。粉飾決算をしない為、させない為に、行政職員の管理者である市長が考えていることを聞かせて下さい。

私は、何を犠牲にしても最初に財政再建ありきとは考えておりません。基本的に景気の回復があり、需要が刺激され、その結果税の自然増があり、結果財政が再建されるというものだと思っております。景気の回復の為にある程度の財政出動をするのは政治の仕事であり、基本的にある程度政治が経済を操作出来ると考えている者の一人です。

これに対し、規制緩和があって、経済成長があって、結果、税の自然増収があり、結果財政が再建されるという考え方を見た時、懸念されるのは規制緩和が本当に国民の幸せにつながるのだろうかということです。

自由経済が市場に残れる者と市場に残れない者を作ってしまうのは御存知の通りです。適者生存の法則です。その市場で最も能力のあるものが生き残るというものです。確かにこのシステムが資本主義国において経済をより発展させてきたのはその通りです。しかし現実の社会には制度として、経済活動により市場からはじかれたしまった企業あるいは人間を保護するシステムが必要です。これが社会福祉政策であり、社会保障制度であり、私はこれは政治の仕事だと思っております。規制緩和をするならそれは財政出動と同時にやらなくてはいけないというのが私の考えです。

それで市長に聞いておきたいのですが、住民にあまり負担を強いなくかわりに行政サービスも低いよという小さな行政という考え方と、逆に住民に大きい負担を強いても手厚い行政サービスを行うという大きな行政という自治体運営に関し大きく2つの考えがあるのは御存知の通りです。

低い住民負担で手厚い行政サービスというのだけは有り得ないというのも言うまでもないことだと思います。市長の考えを聞いておきたいのですが、釜石は住民の高負担の高福祉で行くのか、それとも住民の低負担で低サービスで行くのか。市の財政と行政の関係をどう認識しているのか聞かせて下さい。

あ と が き

ちょうど10年前の春先からひどい花粉症になりました。くしゃみは出るし、目はかゆいし、鼻水は出るし、まるでかぜをひいているようです。今もこれを書きながら鼻水が出てます。今の時期は花粉症でつらい方も多いと思います。花粉症は突然なるそうですのでみなさんも注意して下さい。

小野共事務所 電話(ファックス)兼用 55-2730